(1) 土 地・気 象

1. 岐 阜 県 の 地 勢

本県は本州のほぼ中央にあり、海に面しないが3千米以上の山地から海面に近い平野まであり、古来「飛山濃水の地」といわれる。すなわち、県の北部および東部の大部分は山地で、南部に濃尾平野の一部である美濃平野がある。山地は周辺の県境で高く中央から南部に低い。東部県境は飛騨山脈で、その北部の3千米以上の高峻な山々は、日本での山岳美で日本アルプスの名があり、 その南に乗鞍、 御岳等の火山がある。西部県境は加賀山地、美濃越前山地、鈴鹿山地等で2千米前後の山が続き、北部に白山、大日岳等の火山をのせ、南部に伊吹山等がある。また美濃越前山地附近では断層に刻まれて不規則な山塊をなし、根尾谷は活断層で有名である。この東西県境の高い山地の間に、それより一段と低い飛騨高地、美濃高原があり、北部より南部へ高度と起伏を減じながら愛知県まで続いている。

地質構造上からは、岐阜県は全部西南日本の内帯に入るので、その特色として古生層や花崗岩で覆われているところが広い。すなわち、加茂郡から西方の美濃山地の大部分および飛騨東部は秩父古生層であり、東濃地方から加茂東部、益田、大野、吉城の各郡は花崗岩や同質の花崗岩質斑岩に広く覆われている。その他は、中世代のジュラ紀層が北西県境と古川附近の山地に二、三の塊をなし、新生代の第三紀層は東濃地方および可児、加茂の各郡や養老、北飛騨の一部に見られる。

広い山地は水量豊かな河川の涵養地で、ほぼ乗鞍岳、位山、大日岳等の山を結んだ山地を分水界として、長大な河川を太平洋側と日本海側に注いでいる。日本海には宮川と高原川が神通川となり、また白川が庄川となってそそぐ。太平洋へは長野県から発する木曽川に飛騨川が合流し、長良川、揖斐川等の大河川とともに濃飛平野に集って伊勢湾にそそぐ。これらの河川は山間地や中流部の隆起地帯で谷を深く刻んで峡谷をなし、現今は発電に開発されて、日本での電源地帯となり、景勝地となっている。

美濃平野は大部分が沖積平野で、北部に各務原の如き沖積台地を附し、西方は急な山地で限られ、その麓に小扇状地を附している。沖積地の北部はゆるい傾斜の扇状地で、南部は平坦な三角洲で木曽、長良、揖斐等の河川の堆積によるものであって、地味は、 きわめて肥沃にして一大穀倉地帯を形成している。 扇状地では排水がよく、河川の河床は比較的浅く礫が多い。三角洲では排水が悪く、河川の流れはゆるやかで、河床は深く砂か泥で潮の干満の影響を受ける。扇状地の末端の境附近では「ガマ」と呼ぶ湧水地帯があり、平野の小河川の源となり三角洲地帯は地下水も豊かで、掘抜井戸も広く分布している。